

911.3

七

春(下)





二月

如月真儀抄三日月
分五飯テ衣ヲ更ニ着ルト云
義也

二日夕

千題掌玉集

春之部下

ふ去菴いき雄

潭堂得水

撰

柳うらなと定玉は二月の柳

永手

深き池より二月の柳

湖大

夕月や夕月二月の夜と成る

桂式

夕月や夕月二月の夜と成る

月桂

夕月や夕月二月の夜と成る

護外

夕月や夕月二月の夜と成る

西馬

夕月や夕月二月の夜と成る

以水

春

初午

事 糾 藏事記三曰
武江俗二月八日事納才
共進世誤ナリ百却テ管
見以定リノ僻説ト云ヘシ
貞徳門未得著昔吟我
集ニ對シテの影の目おぼ
子胸を洞度よひと
多よまのらきト自當
用集ニ三月十三日事始
是ハ三月ノ教修リテ十三日
正月ノ始ト云ヒ八日轉
シタリハイノ頃ニヤ尚可考

二百餘萬々林火本の才乃り久程 西由
靈しと云ハ正々 二日夕 守山
二日夕先時始りしと云 三
初午や寒心と云々始又日 和 大夏
初午やツツツ初海したと 地 寄三
も初午のたえよあし何 裏の末戸 三
よ以て云よる七降りり 事納め 乃水
大そりし初川久程 薪 能 文水
芝能もの才玉七事 伽 意人 又
るかりの流さく少し 涅磐像 西由

新 能 南都真福寺
南大門新能アリ元ハ夜申法
会ノ向寺僧ノ奴僕ノ前
ヲ禁テ寒ラ凌其光テ能
僕ナシ長夜ノ戯トセニ共
後金春觀世保生金剛聖
内ニ世ハ江ナリ南都休暇
ノ坐是ヲ勤ム
涅磐像会十五日
涅磐像佛ノ別常樂会
モ同ナリ
西 行忌十六日わな
くを玉のナリと云云
むるありの月ハカハツキ
の以テ後ノ行ニ三月十日
日定化仕ハ年ナリナリ
彼 江戸生元此岸外涅
磐ハ彼岸ナリ煩惱ハ中流ナ
釋 奠上ノ丁日二月ト

村長のつろつろあや涅磐像 寄三
梅子すけ倚くやうそわん 秀吉
もろりや母あふ入中取り 西馬
過り猿思ひ出さる 托古
白杖のしんこま多き 彼岸の物 完車
糸物の通しゆき返りひん 唯風
畦道さうさかひつ希し 彼岸ハ 秀吉
今あそ言ひり小里あり 彼岸ハ 秀吉
釋奠舞子も多しあり たり久程 又
そ希し子も多し 望釋奠 四端

朧月
春、氏

親き人よむきしはまき月
あふ人の南はまきしはまき月
新法はまきしはまき月
おろしはまきしはまき月
料理はまきしはまき月
片はまきしはまき月
去り月まきしはまき月
ゆくまきしはまき月
物まきしはまき月
杉山まきしはまき月

志局
河則
文若
中純
梅白
秀高
宗雄
西馬
浪子
林甫

朧月
春、氏

そまきしはまき月
月新まきしはまき月
粒の針まきしはまき月
大り粒まきしはまき月
畝まきしはまき月
改まきしはまき月
月のまきしはまき月
水まきしはまき月
楠干のまきしはまき月
陽堂まきしはまき月

漁村
一月
三月
六月
九月
十二月
三月
六月
九月
十二月
三月

易炎糸遊同物二名
川春氣地ヨリ糸ルヤ陽

山
燒

かしらひき枝を水かけりて
 吹うくとおはれや巾のうら
 巾のうらまゝとるゝとく
 吹うくとおはれや巾のうら
 巾のうらまゝとるゝとく
 吹うくとおはれや巾のうら
 巾のうらまゝとるゝとく
 吹うくとおはれや巾のうら
 巾のうらまゝとるゝとく
 吹うくとおはれや巾のうら
 巾のうらまゝとるゝとく

畑
打

田
打

かしらひき枝を水かけりて
 吹うくとおはれや巾のうら
 巾のうらまゝとるゝとく
 吹うくとおはれや巾のうら
 巾のうらまゝとるゝとく
 吹うくとおはれや巾のうら
 巾のうらまゝとるゝとく
 吹うくとおはれや巾のうら
 巾のうらまゝとるゝとく
 吹うくとおはれや巾のうら
 巾のうらまゝとるゝとく

きののちを暖くもたけり那王 井史
 雛子の声 山又心の おしりん 玉弱
 川そよつとむやまきののちり 湯玉
 きーのちを暖くのむうふや下 汲古
 うら丹戸よこころの雛子の顔くれ 古風
 長ふおちやおの梅一のきーの声 挙山
 せしりもそやまきうのやまきののちり 小舟
 旅のちを暖くもたけりきーのちを 酒船
 ちりもたけり雛子の走りちり 麦舟
 等閑のちを暖くもたけり雛子の顔 水

五云 雀告天子 鷓鴣以
 三六ナリ 春草中ニ插ニ花

人もを後をたけりきーのちを 小山
 思ふもたけりきーのちを暖くもたけり 鴨
 木はうねる藤の木のきーのちを 柳舟
 雛子のちを暖くもたけりきーのちを 雀園
 湯玉生やまきーのちを 湯玉
 ちりもたけりきーのちを暖くもたけり 柳舟
 雛子のちを暖くもたけりきーのちを 柳舟
 雛子のちを暖くもたけりきーのちを 柳舟
 雛子のちを暖くもたけりきーのちを 柳舟

下りて何しやうのちるをぞ推く柳
 下りのそらも持まゝひそりし柳
 水も止しとやうとんをえしと推く人
 四ヶやをぞ推つ柳よまのそら
 水も押すの葉もく柳もぞ推く柳
 水も押すの谷のそらもく柳もぞ推く
 水も押すのやまを推す雪の山一つ
 水も押すのうたやうりるひそり
 水も押すのうたやうりるひそり
 水も押すのうたやうりるひそり

西馬

美人

未

杉

函

仙

土

算

柳

燕

水

與鳥琴彈鳥其声回滑
 二ニ短リ鳥時声隨子豆
 フ五ニ拳テ琴テ彈テ動
 寸如レ故ニ召アリ雄ニ照リ
 與鳥トメテ赤カ場ハ雨驚
 ナメテ色赤カラヌ
 轉サト界諸鳥共ニ鳴
 フメナリ
 雲ニ入鳥閉詠花落
 隨風鳥入雲リ来ハセ
 さいりて思えんとも守りて
 こゝろのそらも

引 鶴 三つ 雀

申しはるそらや雪のうたや
 雪のうたや水と雪をうたや
 けのそらや雪のうたや
 うたやや雪のうたや
 寺ののれをうたや
 柳りや人の却をうたや
 雲よ入をうたや
 うたや入をうたや
 うたや入をうたや
 うたや入をうたや
 うたや入をうたや

水

車池

柳

燕

西馬

石

鳥

西

馬

鳥

池

初蝶

遠く出る所の如き水に又 蝶
 了連のひをねと残る 蝶
 谷の戸やまの春をよる 蝶
 跡のまじりたる 蝶
 蝶子のをさす 蝶
 空をよる子斗 蝶
 蝶の巣をよる 蝶
 蝶の跡のよる 蝶
 蝶のよる 蝶
 初蝶のよる 蝶

草飲
 遠宇
 西馬
 三木
 栢通
 初言
 秀芸
 水
 秀多
 西雄

蝶

初蝶のよる 蝶
 蝶のよる 蝶
 蝶のよる 蝶
 蝶のよる 蝶
 蝶のよる 蝶
 蝶のよる 蝶
 蝶のよる 蝶
 蝶のよる 蝶
 蝶のよる 蝶
 蝶のよる 蝶

春八
 西馬
 世
 春山
 辰
 角
 月
 栢
 春

蛇 丑春生ニテ六月ヲ
限リノ虫也多ク牛馬鹿
猪等ニ付テ羽ヲ鳴ス

七虫マタリ

蛇生穴 仲春自蟄虫
咸動ク戸開テ始テ出ル

地 虫 土中ニ穴ヲウシ
開ル時ハワツカニ
頭ヲ出テ空中ヲ望ム小虫也
田螺 田或ハ小池ノ泥
中ニ住テ水暖ナレハ蓋開
テ遊行ス時ニ蓋アリト云

寄居虫



寄居虫ハ月形
體極テ小ナリ中ニ
小海老ノ如ク小虫アリ
吹水ニ漬一夜ヲ
明セハ悉ク貝ヲ
食ル海老ノ如ク食テ之良ス
馬刀ハ如國売中雨
アリ砂中ニスルニ穴ヲ
見ツテ盛盛怒出ルト云
又此ヲ見附申ニテ突ト
テ云

苗代 八種ヲ節ス田
カネ水日祭田ノ水口ニ
在テ挑山吹トシ花ノ
角大師ノ節ヲナド
テ此ノ上ニ有氷雹除ノ鳥
種節

日の影をくまらさずや窓の蛇
又山や蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇

左池
右通
具羊
文哉
又々
西馬
生魚
柳島
心水

山の影をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇
蛇をくまらさずや窓の蛇

右池
右通
具羊
文哉
又々
西馬
生魚
柳島
心水

種浸ニ種井二月土用中
吉日ノエラヒ川或ハ池ナト
種儀ヲ浸寸彼岸後十日
程ニテ種ノ上ケ明ニテ苗
代ニオロス是ヲ種卸トキ種
ノ浸ス處ヲ種井トス
下 崩草ノ萌初セ也
中ノハニ種ナシハチ上ノ
トモニシテ其ノ種ノ種モ
凡クニシテ少將内侍

春草

若草



人ノ少玉方ニシテ子ノ事ニシテ
ヤリシヤヤ持テシテヤリシ州
カダノ事ニシテヤリシヤリ
カヤリシヤリシヤリシヤ
風ニシテヤリシヤリシヤ
五ノ下林ニシテヤリシヤ
人ノ少玉方ニシテ子ノ事ニシテ
カヤリシヤリシヤリシヤ
カヤリシヤリシヤリシヤ
カヤリシヤリシヤリシヤ

京麩 寿部 佐也 子風 草成 未曉 其則 倉丘 照雲

摘草

立ク、多ハ菜ノ
霜根ヨリ出テ直ニ莖ヲナシ
花ハ僅ク菜ナリ

天花菜 土筆

カヤリシヤリシヤリシヤ
カヤリシヤリシヤリシヤ
カヤリシヤリシヤリシヤ
カヤリシヤリシヤリシヤ
カヤリシヤリシヤリシヤ
カヤリシヤリシヤリシヤ
カヤリシヤリシヤリシヤ
カヤリシヤリシヤリシヤ
カヤリシヤリシヤリシヤ
カヤリシヤリシヤリシヤ

一取 抄卷 水心 西田 秀吉 備古 陸有 五松 土筆

蒲公英 陰藤菜又

鼓草 春宿根

ヨリ生シ黄

花ヲ開花後

白毛ノ鞠

如クナル者ト云



菜花

指人と結好持ありてつくす

食草をくゆりて土子のまき取 春園

藩の英のひきりハ起さるりしり 栞

藩の英のひきり通すれり 竹外

藩の英のひきり通すれり 度

藩の英のひきり通すれり 蓮亭

藩の英のひきり通すれり 寄三

藩の英のひきり通すれり 汎家

藩の英のひきり通すれり 櫻哉

藩の英のひきり通すれり 可忠

藩の英のひきり通すれり 白元

藩の英のひきり通すれり 柳水

藩の英のひきり通すれり 萬曉

藩の英のひきり通すれり 葉依

藩の英のひきり通すれり 松

藩の英のひきり通すれり 月

藩の英のひきり通すれり 身山

藩の英のひきり通すれり 松古

藩の英のひきり通すれり 西御

藩の英のひきり通すれり 新成



五形草ケンゲハ
 多ク荒田ニ生ス形
 如圓花ニ紫
 其盛地ニ錦
 數ク
 カ如シ

虎 丈イタトリ深山ニ生
 スルモノハ丈ク丈長シ味佳ナ
 野田ニ生スル細ク始ヨリ葉有
 皮ニ赤キ斑アリ長シニ枝ニ生
 シ七月花ニ開キ九月實ニハ
 ス
 北嶺 早蕨

山 葵
 山谷水氣此生ニ相集
 其辛ミアリ
 莖ヲ生シテ
 白花ノ開



胡 葱
 アサツキ

野 蒜
 ノヒ

初 花

初 櫻

善ク玉ヤ松ノ花水々々おちる
 尺多クよちるヤ玉形ノ花々々
 花々々々々々田路々々 玉形子
 わくまの 畦々々 咲ヤ玉形子
 括々々ハ括々々 玉形子
 席杖や寒々々 けき白葉のよ々々
 席杖や去々々 山ノ 裾
 御ちの や々々 市々々 嶽
 嚴橋々々 日々々 仰々々
 々々々 々々々 々々々 々々々

西馬 豊橋 僅外 南々 一朗 一福 五渡 章屋

去々々の 踏々々 山々々
 苞子 芽々々 々々々 々々々
 煮々 焼々 々々 々々 々々 代
 胡葱の 土々 々々 白根々々
 々々ハ 芥々 々々 々々 々々
 御ちの 花々 標々 々々 々々
 々々 々々 下々 々々 々々 括々
 初々 々々 々々 々々 々々 一々
 々々 々々 々々 々々 々々 々々
 々々 々々 々々 々々 々々 々々

厚削 田竹 糸吉 又々 碩布 括々 旭翁 松甫 風帆

五加木ウヰギハホヤ
ワラカニシテ針アリ葉ハ
五ヒラニシテ青ニ味ハ苦ク
ニテ品宜シ

朗詠

近加

さもくまみこし むか木はつるもの 振るるるはたか きる帆ヤフ板 船のるる起る をや去るるさや りる言るる木の 家ちうれ居る 暗やまのるる 足沙がくあ 	一 鳥 其 一 五 白 遠 其 左 足	山甲の ある夕 於少 さいく 山 竹 号 若	一 風 雷 鳥 雲 西 全
---	--	---	---------------------------------

弥 生ヤヨヒハイヤ
ヨヒ月ヲワメタルニテ
ノその生とらうはく生
名の義なり

竹 秋竹
八月ヲ以春

離 五元離遊

山甲の ある夕 於少 さいく 山 竹 号 若	一 風 雷 鳥 雲 西 全
---	---------------------------------

三月三日ト限ラサルモノ
ナリサレト上巳拔贖物
ヨリ移リテ人形ヲ以テ此
日ヲ祝フカ

帝 離

此

鶏 合トリアハセハ
鶏ノ呪合ネリ同金ニ初メ
オコレリトソ本朝大慶元
年三月四日蘭雞ト番アリ
鶏ノ諸雲客ヨリ出ケル仙納
弥市此事ニ預リ勝負ヲ
史ス是ヲ行事ト云
曲水 官女流觴巴字
意羽觴ヲ流ス三月三日
御溝水ニ盃ヲ送ベ夫人以
下飲之
鞦 遊ナラハ春
節長キ繩ヲ木ニ投エカケ
キ女被服ニ其上ニ坐シ是
推引ス名付テ鞦ナリ云
又半仙戲和名由左波利
潮 十三月三日海
潮卷ナリ諸人競ヒ来リ蛤

寄三
歷山
吾高
谷子
尺左
此椽
遊采
竹良
一朗
竹烟

西曲
一管
又
由費
精ち
為古
和安
定車
成章
竹一

小魚ナド取テ遊ワナリ泉
堀起及加多浦武品品川其
外国マニモアリ

草餅蓬母子草

等餅ニツキテ食ス

寒食冬至ヨリ一百

五日目國中火ヲ禁入故ニ

寒食長トス昔朝ハナシ

梅若忌三月十五日隅

田日梅柳山木村寺大念

仏会

御身拭三月十九日唯

我清涼寺ノ本尊釈迦如

來ハ天竺毘首羯ノ赤梅

檀ヲ以テ作ル知也今日爾帳

寺僧白巾ヲ以テ佛ヲ拭

是ヲ御身拭ト云

壬生念佛三月十四日ヨリ

北山追融通念仏ヲ主人此

間能優ラナク主生狂言カ

汝千うり咽うさうさう

眼のきまむる杖の先やまの條

おもはうや海うさうさうのま

まはらの匂は干たうの白く柳

寒食中ふはらうおきゆと強

まうくと海うさうさうの杖

あう佐り次を壬生の念佛くれ

峰入や移るうの行う

清水の柳柳深しう

竹立

蒼丘

心ま白

皆ぬ

等北

等裁

心風

西馬

全

卓池

岩峰 入役行者岩峰入ノ

道ヲ走ル年毎ニ熊野ヨリ

大峯ニ入テ吉野ヨリ是ヲ

順ハ峯入ト云吉野ヨリ今

大峯ノ後ヲ廻リ熊野ノ懸

門ハ此ヲ逆ハ峯入ト云順

ハ峯入ハ聖護院御門室連

峯入ハ三聖院御門室ヲ行セ

ラル

日 永

暮遲日

り水くと橋うちうちの橋のあり

一ウカのの鶴うさう日永中

水まのやそ何もねんお玉車牛

窓まおて花あたまきり水心

あまうくとちうとらんあうり水心

道下まはすり橋うさう水系柳

水まのよわおふとちうや橋あり

水まのやうとちう海まもまこの心

ままの成りぬたの海の心まより

まおまの影ままの影まの影

蒼乳

り風

ま竹

ま如

ま如

如友

秀奇

ま如

竹号

如雪

春日

春ノ空

爐塞

春の日はよき日なるぬかしりれ 倉乳
 言はさきの物つらなるきりあけ 圭吏
 埋つゝ木を握りてけるわらわぬ 菫月
 個々のちかちかもあふさるるれ 圭権
 春のそら空のさびしきもやうりぬ 今
 押さつゝ出さるる時々もさうさ 水
 ゆるゆるも流しゝ塞く圓炉裏に 西馬
 好まざるやひまのあつさるるせ 寄三
 かのそらやあきらむるあの一掃 性一
 好むもの物もなれきりゝる代 一甫

別霜

麥 鶉 ヒキウツラハ三四
 月頃青麥の中ニ子ヲ哺ス
 ルノ鶉ナリ 台笛アヒスハ
 雌ヲ鳴セテ雄ヲ呼テトル
 フズヒ、ナキハ雌ノ鳴声
 フズナリ
 替蠶 蚕棚 菜蚕 飼屋

櫻 鯛 花開ノ頃ニ
 櫻ノ花開ケルニ
 鯛ノ名付
 鯛ノ名付
 鯛ノ名付
 鯛ノ名付

西馬のあつたりもあつたりぬれ 西馬
 あつたりとくあつたりぬれぬ 西馬
 あつたりとくあつたりぬれぬ 西馬
 あつたりとくあつたりぬれぬ 西馬
 あつたりとくあつたりぬれぬ 西馬
 あつたりとくあつたりぬれぬ 西馬
 あつたりとくあつたりぬれぬ 西馬
 あつたりとくあつたりぬれぬ 西馬
 あつたりとくあつたりぬれぬ 西馬
 あつたりとくあつたりぬれぬ 西馬
 あつたりとくあつたりぬれぬ 西馬
 あつたりとくあつたりぬれぬ 西馬

十園子も玉の刀をさや字が山
 紫あや戸や先うも付よ玉日和
 松の風ひそよ玉ささきさひら
 豆あさよわもささや玉り月
 玉ささき風さねりしもささき
 市巾や玉ささけらぬ寝の鳴
 玉の鳴りささきりるやねも
 袷ささきり合のたらしおの玉
 肌ささきりし八をささき玉さ
 新玉のあさきりめささや玉さ
 五橋 由章 松圃 桝圃 水橋

松の風ひそよ玉ささきさひら
 豆あさよわもささや玉り月
 玉ささき風さねりしもささき
 市巾や玉ささけらぬ寝の鳴
 玉の鳴りささきりるやねも
 袷ささきり合のたらしおの玉
 肌ささきりし八をささき玉さ
 新玉のあさきりめささや玉さ
 五橋 由章 松圃 桝圃 水橋
 松の風ひそよ玉ささきさひら
 豆あさよわもささや玉り月
 玉ささき風さねりしもささき
 市巾や玉ささけらぬ寝の鳴
 玉の鳴りささきりるやねも
 袷ささきり合のたらしおの玉
 肌ささきりし八をささき玉さ
 新玉のあさきりめささや玉さ
 五橋 由章 松圃 桝圃 水橋

玉の戸を鏡を下したる中をすのり
 登り中 ちと毎ちらぬ玉の意
 登りしきまのハハを玉の中
 ぬよりく玉を何れ風の神
 玉の戸を更行次のか
 うらうらうとくもちの 静の玉
 玉の戸を松を何れ 玉の中
 静はちの松をうらや玉の意
 玉の戸を何れ玉の意
 玉の戸を何れ玉の意

源生
 白元
 一朗
 古明
 秀秀
 月雀
 南明
 可好
 真子
 石丈

桐を香の体より 木を玉の布
 人新玉玉のちとく 玉の
 玉の玉を月日の道と意と
 里人の玉を松の枝を何れ
 軒ハリ玉をまね玉を松の玉
 月と日と意と玉の玉の玉の玉
 玉の玉を何れ玉の玉の玉の玉
 玉の玉を何れ玉の玉の玉の玉
 玉の玉を何れ玉の玉の玉の玉
 玉の玉を何れ玉の玉の玉の玉

乙雄
 月折
 竹良
 竹塙
 福柳
 義琴
 豊村
 全

下
具

春

下廿三

花見

美しき花の影をよむ花見
 如くは花の影をよむ花見
 旅くよ花の影をよむ花見
 芝の匂いよ花の影をよむ花見
 庭の草花よ花の影をよむ花見
 一旦は花の影をよむ花見
 思ひしよ花の影をよむ花見
 家なきよ花の影をよむ花見
 坊なきよ花の影をよむ花見
 包なきよ花の影をよむ花見

倉丸
 風洞
 車池
 西馬
 字之
 一月
 梨水
 高小
 九峯
 水

花盛

散花

成のよ花の影をよむ花見
 中くよ花の影をよむ花見
 余り花の影をよむ花見
 花なきよ花の影をよむ花見
 花なきよ花の影をよむ花見
 花なきよ花の影をよむ花見
 花なきよ花の影をよむ花見
 花なきよ花の影をよむ花見
 花なきよ花の影をよむ花見
 花なきよ花の影をよむ花見

中物
 高小
 人々
 車池
 右通
 雪布
 高小
 文河
 永松
 其山

花見

美しき花の影法師 春の風をよみ
 如くも時をたぐり 空を渡る鳥
 旅くまの影法師 春の風をよみ
 芝の匂い 春の風をよみ
 一具の春の風をよみ
 思ひまゝの春の風をよみ
 家も春の風をよみ
 坊も春の風をよみ
 包も春の風をよみ

蒼丸

風洞

卓池

西馬

客云

而月

梨水

高心

九峯

水

花盛

散花

成のまゝふかき中をゆく 花の影法師
 春のまゝふかき中をゆく 花の影法師
 中へまゝふかき中をゆく 花の影法師
 余りまゝふかき中をゆく 花の影法師
 花のまゝふかき中をゆく 花の影法師
 花のまゝふかき中をゆく 花の影法師
 花のまゝふかき中をゆく 花の影法師
 花のまゝふかき中をゆく 花の影法師
 花のまゝふかき中をゆく 花の影法師
 花のまゝふかき中をゆく 花の影法師

半池

高心

又々

卓池

右通

雪布

高心

文河

永枯

其山

春

花ノ雨

花。雪。吹

花。曇

花をちりや 女ハ女ノ 強クシキ 唯ノ洋
 花ををの 何と志きし 三味ノ子 三味石
 尚ををの 何を 解すなり 花のる 梅白
 口ををの 何を 解すなり 花のる 占射
 口ををの 何を 解すなり 花のる 占射
 新すけと ちや 月夜のを 丹草
 ちや ちやの 花の 葉は 葉は
 月ををの 何を 解すなり 花のる 西馬
 花ををの 何を 解すなり 花のる 西馬
 ちや ちやの 花の 葉は 葉は
 ちや ちやの 花の 葉は 葉は
 ちや ちやの 花の 葉は 葉は

花ををの 何を 解すなり 花のる 占射 東京 末世

花ををの 何を 解すなり 花のる 占射 五休

花ノ山

櫻

花ををの 何を 解すなり 花のる 占射
 花ををの 何を 解すなり 花のる 占射
 花ををの 何を 解すなり 花のる 占射
 花ををの 何を 解すなり 花のる 占射
 花ををの 何を 解すなり 花のる 占射
 花ををの 何を 解すなり 花のる 占射
 花ををの 何を 解すなり 花のる 占射
 花ををの 何を 解すなり 花のる 占射
 花ををの 何を 解すなり 花のる 占射
 花ををの 何を 解すなり 花のる 占射
 花ををの 何を 解すなり 花のる 占射
 花ををの 何を 解すなり 花のる 占射

春

りやのそけりとあささくら川
 白やうらんてらるる山所の橋は
 あうめらるるをたやま昏ら橋は
 名も理と初うりひを橋は
 昭ま何ゆる橋は石を結音る
 障をうつくはひるたささくら代
 咲をちるもささくら一ゆるぬ橋は
 冷くさらのさすけのさくら丸
 だぬ先のあくら帯牙橋は
 のつとさくら月よ小寒ささくら代

指山
 是則
 左一
 一瓜
 吞次
 菊芳
 五雀
 孫園
 の喃
 一甫

人の帯は卯むくゆるささくら代
 帯のついでんさくらを照る橋は
 帯をくらや尾角時候の何處
 おおまきの付を帯は入さくら代
 此ちりさくらささくらを押さくらり
 りやの帯をらんをけりさくら橋
 月さすやささくらハ咲き桜のる
 咲うぬれとおおあを待さくら代
 遠山をささくらを帯をさくら丸
 帯くとささくら咲くら箱木山

水
 竹良
 若系
 一晶
 明水
 之令
 秀喜
 築堂
 土佐
 全

夕櫻

晴きや夕のさゆき度又さくら
西馬
つとまき石狭八河より夕さくら
井

山櫻

このまきハ咲あけりゆき夕櫻
林甫
さつろくさきりちりく又さくら
まら

散櫻

さきまけりるん夜ゆり山さくら
き之故
あらね咲きあけり山さくら
乃水
さくらさくら人のさくら 山櫻
まら

徒ら過り月日やまらさくら
一静
人さくらさくらさくらさくら
皆如
さくらさくらさくらさくら
尾正

遅櫻

桃ノ花



さくらあさくらさくらさくらさくら
秀考

眼をさくら風さくらさくらさくら
まら

さくらさくらさくらさくらさくら
まら

思ひやり遅きあけりさくらさくら
まら

さくら待てのさくらけり遅きさくら
まら

桃のまきさくらさくらさくらさくら
倉丸

さくらさくらさくらさくらさくら
まら

平きさくらさくらさくらさくら
寄之

獨りさくらさくらさくらさくら
月杵

一物さくらさくらさくらさくら
まら

海 棠花紅睡花



白根中まゝ好味すすけり阿る 一甫
 牛うらゝのゝ門とや根のまゝ 蕉水
 是のまゝのまゝ好味すすけり阿る 系花
 海棠の好味すすけり阿る 栴室
 海棠や好味すすけり阿る 蓬泥
 海棠の好味すすけり阿る 秀步
 海棠や好味すすけり阿る 九江
 海棠や好味すすけり阿る 長洋
 海棠や好味すすけり阿る 車石
 海棠や好味すすけり阿る 如發

木蓮花



辛夷
 コアシ
 木筆
 トモ云
 又幣 辛夷ト云

梨子花

山 吹棣棠ナリ

佛きの好味すすけりや木蓮思 又々
 厚の好味すすけりや木蓮思 木和
 辛夷なまゝ好味すすけりや木蓮思 木和
 のまゝ好味すすけりや木蓮思 田龍
 梨子桐や好味すすけりや木蓮思 漢外
 又月や好味すすけりや木蓮思 菊言
 山吹や好味すすけりや木蓮思 西馬
 山吹や好味すすけりや木蓮思 九江
 山吹や好味すすけりや木蓮思 系外
 山吹や好味すすけりや木蓮思 九江

海

紫花紅睡花
五七



白根中まゝの如流のすれり阿る 一甫
 牛うりこのり門りや根のすれ 齋水
 是のりまのり如くはるり根のすれ 系根
 海棠の如くはるり玉原のりれ 栢室
 海棠やるりり流し根のりら 逢流
 海棠のるりり玉原のりら 秀步
 海棠やるりの如きまゝのりら 九江
 海棠やるりの如きまゝのりら 長洋
 海棠やるりの如きまゝのりら 庫水
 海棠やるりの如きまゝのりら 如發

木蓮花



辛夷

コブシ

木筆

梨子花

山 吹楹棠ナリ

佛きの如くはるりや本蓮花 又く
 厚の如くはるり本蓮花 木和
 辛夷をまゝのりりかまはるり根のりら 寺吹
 のりりまのりりかまはるり根のりら 田龍
 梨子根中まゝの如きまゝのりら 漫外
 以月や根のりり根のりら 翁言
 山吹や根のりり根のりら 西馬
 山吹や根のりり根のりら 酒楹
 山吹や根のりり根のりら 弟外
 山吹や根のりり根のりら 九江

山吹花

山吹花黄ナリ連鞠や
柳の花山吹を其角
花山吹ヨリ瘦ナリ



石楠花日光不二其外
深山ニ多シ花ハニ似テ集

咲ッ色ウズ桃色
躑躅

木尻
花丹色
木ノ丈四五
尺又七八尺



ハ藤

形九ク味酸氣アリ

又地ニシキタル者
アリ草木尻トモ
シトメトモ云實ヲムスフ

山吹や目のすくやうの如く好色 月杵

連鞠の葉にさそふとむの時 蒼帆

山吹の付く山吹を井為れ 髯史

連鞠や一足志を遠入は 曲川

さそふの葉を連鞠のまをまを 備を

連鞠や 維理イサケ 其葉

山吹の付く山吹を井為れ 尋馬

連鞠や一人部此をまを 西馬

石楠花のそ風空 又

石楠花や山の白ひの海う成 又

激まりの中よ木のそくつ 江之

松伐あつり向ふ山吹のつ 松根

まをまをらやらまをのまを 入家

石山よひをわらうりのは 寄之

梅の隙をまをらあはのまを 新之

川節や砂工候と木尻のまを 東之

山吹の付く山吹を井為れ 為山

山吹の付く山吹を井為れ 為山

山吹の付く山吹を井為れ 為山

薊 子に肩作花



薊 刺アリ四月 紅花也ヲ開ク

櫻草



九輪草

薊 花ノ分ハチカヤノ 穂ナリ



如圖ニテ 白キ科ヲ 出ス

羨相の下や冷きき 蚕の 夙
 出るも入り入らぬ 竹外
 下くくわわ 七華
 ねらふ 歴山
 挑打を 定札
 けりねく 秀吉
 むら水の 酒旅
 厚月や 至極
 おらぬ 可興
 前と 柳生

まるるも 西馬
 幸す柳 乃水
 約合ま 又々
 妙命の 如受
 ありの 幸雄
 坐るの 又々
 志向く 赤石
 泣ぬま 芳子
 虹消え 去瀬
 夢の 二柳

莖スミレハ如園ニテ花ハ
ラサキ又莖莖トモ是ハ
花カタチノ墨入ニ似タル故ニ
壺墨入ノ縮語ナリ

萍 生ウキクサ
クサレ水ニ生ス長ハ
多クミテ水ノ色ヲ見セス
益 園

余のまゝおちるぬあちりす	日のみわやまふ向まきす	牛の口おつまるそとく	那の申つり先お本も	あつらふまきふと	あつらふハ色濃く	能ふとよと	萍の生るひま	けさくあ	鳴ふの
漁女	芳鳩	斧州	秀馬	西馬	むら	う	う	生	風朗

春 深
復 近
復 隣
行 春

ゆきやうんそとひま	ゆきやうんそとひま	ゆきやうんそとひま	ゆきやうんそとひま	ゆきやうんそとひま	ゆきやうんそとひま	ゆきやうんそとひま	ゆきやうんそとひま	ゆきやうんそとひま	ゆきやうんそとひま
おちるぬあちりす	日のみわやまふ向まきす	牛の口おつまるそとく	那の申つり先お本も	あつらふまきふと	あつらふハ色濃く	能ふとよと	萍の生るひま	けさくあ	鳴ふの
おちるぬあちりす	日のみわやまふ向まきす	牛の口おつまるそとく	那の申つり先お本も	あつらふまきふと	あつらふハ色濃く	能ふとよと	萍の生るひま	けさくあ	鳴ふの
おちるぬあちりす	日のみわやまふ向まきす	牛の口おつまるそとく	那の申つり先お本も	あつらふまきふと	あつらふハ色濃く	能ふとよと	萍の生るひま	けさくあ	鳴ふの

春惜

孫生盡

杉有やそり雪をさすの江 柏水
 新しきやあきききしなる机 林甫
 行たきのあききききききき 秀吉
 ちり換りまきとゆらぐや新 香共
 新しきやそり雪をさすの江 寄三
 去ききききききききききき 西馬
 去ききききききききききき 茶堂
 目らちききききききききき 竹舎
 満りまききききききききき 招古
 満りまききききききききき 桂仙

三月盡 朗詠

春めきの月日まききききき 水
 春めきの月日まききききき 酒友
 春めきの月日まききききき 蒼乳
 春めきの月日まききききき 竹子

追加

春めきの月日まききききき 南海
 春めきの月日まききききき 榮探
 春めきの月日まききききき 瓢仙
 春めきの月日まききききき 一途



藤原

義国

門へ出く波をゆめをの宵	石半
翁上襟よそののそれを松の	
抱た子よ指をききせし初葉	柳守
量ゆや雪結とらるる序子殿	
遊和やひすねく松ハ菱松子	祖風
命のあり耳をきき日暮久れ	青我
笠をかきハ靴き出りり女の子	
色をくらんぬるし舞をて花生る	
弟ををるるて遠き隣代	
花守の花川を流るる女志らさる	此山



